

関西学院大学総合政策研究科リサーチ・コンソーシアム 第24回総会記念事業報告

古川 靖洋
Yasuhiro Furukawa

【記念事業の趣旨】

第24回記念事業は、過去2年間コロナ禍のために中止となったことから、3年ぶりの開催となりました。感染予防の観点から、従来行っていたものよりは規模を少し縮小しての開催とし、統一的なテーマを掲げることはせず、現在グローバルレベルでの問題となっているウクライナ紛争に焦点を当て、そのことについて総合政策学部・研究科のメンバーと外部の論客とのディスカッションを中心としてシンポジウムを実施しました。ウクライナ紛争は、ロシアとウクライナの間だけの問題ではなく、広域的な安全保障や食糧・エネルギー関連の事象もかかわっており、今や全世界的な問題へと発展しています。2022年2月のロシア軍のウクライナ侵攻以来、ガソリンを筆頭に様々な物資の価格が大幅に上昇したり、輸出入が滞ったりとその影響を身近に感じることも多くなってきています。このような問題は多様な観点を考慮した上で、総合的に議論しないと最適な解を見出すことが難しいものです。今回のシンポジウムでは、ウクライナ紛争やそれによる難民の方々の基礎知識を学び、問題解決に向けて我々ができることの可能性を皆さまとともに考えてみたいという思いから、この内容を記念事業で取り扱うことにしました。また、本記念事業が行われた1カ月後の6月20日は世界難民の日であり、この日に向けて「難民問題・平和を考える催し」となったことは、長年難民支援の取り組みを行ってきた関西学院大学にとっても、非常に喜ばしいことと思います。

総合政策学部では、設立当初から国連関連や国際関係の講義が設置され、多様な問題に対して様々な見地から問題解決策を考察してきました。ウクライナ紛争のようにグローバルレベルで解決していかなければならない課題や目標には様々なものがあります。その内容の壮大さのために、我々はどこから手を付けたらいいのか、また我々に何ができるのかなどを考え始めると途方に暮れることもあるでしょう。しかし、ここで総合政策学部の学部モットーである「Think Globally. Act Locally.」の立場に立って、身近な問題を解決し、その成果をゆっくりでもいいから世界へ広げていくことが必要だと思います。多様な問題や目標に対して、特定の学問領域に留まらず学際的な見地から問題解決策を考え、世界の様々な地域でそれを実践していくことは、まさに総合政策学部・研究科の使命といって過言ではないでしょう。

今回で24回目をむかえる記念事業では、基調講演として清水康子総合政策学部教授と「AAR Japan難民を助ける会」の中坪央暁氏のお二人から「ウクライナ紛争と難民」というテーマでお話をいただき、その後、コメンテーターとして実哲也総合政策学部教授、モデレーターとして小西美穂総合政策学部教授を交え、ウクライナ紛争やそれに付随する難民の課題

について様々な見地から議論していただきました。国連難民高等弁務官事務所に勤務経験のある清水教授からは、ウクライナだけではなく、世界の様々な地域で多くの難民が発生し、その背後には一朝一夕には解決できない人権問題が存在しているという内容で講演していただきました。中坪さまからは、ウクライナ紛争勃発後に訪問されたポーランド国境での難民支援の状況について、写真での紹介を交えた具体的な内容の報告をしていただきました。その後、実教授と小西教授からジャーナリストのご経験を踏まえたコメントや質問のやり取りがありました。続いて、会場に集まった学生諸君を交えた質疑応答に移りました。タイムリーなトピックということもありこの問題への関心が高く、非常に活発な議論が行われました。

また、ポスターセッションでは、学外会員の方と総合政策研究科の大学院生による研究発表が行われました。ポスターの数は10件とこじんまりしていましたが、久々の対面発表ということもあり、各ポスターにおいて非常に活発な意見交換・議論が行われていました。

コロナ禍ということで様々な制約があり、十分な議論を行うことができませんでしたが、今回のシンポジウムにご登壇していただいた皆さま、ポスター発表をしていただいた皆さま、さらに運営にご協力いただいた学内外の皆さまに、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

【総会記念シンポジウム】

「ウクライナ紛争と難民」

《基調講演》

清水 康子(関西学院大学総合政策研究科教授)

中坪 央暁氏(AAR Japan [難民を助ける会])

《パネルディスカッション コメンテーター》

実 哲也(関西学院大学総合政策研究科教授)

《パネルディスカッション モデレーター》

小西 美穂(関西学院大学総合政策学部特別客員教授)

【ポスターセッション】

西宮上ヶ原キャンパスの関西学院会館メインロビーにおいて恒例のポスターセッションが開催されました。学外会員(企業等)3件、総合政策研究科7件、合計10件のポスター発表が行われました。

(1) 学外会員

比嘉 康則(豊中市都市経営部 とよなか都市創造研究所)

『豊中市の単身世帯の生活に関する調査研究』

平田 誠一郎(豊中市都市経営部 とよなか都市創造研究所)

『日常から見る地域の魅力』

－豊中市「地域のイメージと人との関わりについてのアンケート調査」より－

石村 知子(豊中市都市経営部 とよなか都市創造研究所)
『豊中市におけるEBPMの推進に関する調査研究』

(2) 総合政策研究科

岡野 星瑠(総合政策研究科 M2)

『ダークテーマの分析と活用法』

呉 限(総合政策研究科 M2)

『自己主権型アイデンティティのワクチンパスポートを運用』

芝 理仁(総合政策研究科 M2)

『ソーシャルキャピタルの地域医療政策への利用に向けた研究
-救急搬送件数との関連-』

田 岩(総合政策研究科 M2)

『DEAによるBATH及びGAFAの経営効率性に関する研究』

林 嵩大(総合政策研究科 M2)

『新聞報道は外来種対策に如何なる影響を与えたのか？

～ KHcoderを用いた新聞報道と環境政策の相互影響について～』

福井 将来(総合政策研究科 M2)

『財政不安が民間経済に与える影響』

魯 晶媛(総合政策研究科 M2)

『VRオンライン日本語学習』